

北海道における農業と他業種等とのマッチングに向けた取組について

〔令和3年(2021)年2月4日〕
北海道農政部農業経営局農業経営課

■北海道援農推進連絡会議について

1 設置の経過

- 令和2年度当初、新型コロナウイルス感染症の影響により、ホテルや飲食業をはじめ、多くの事業者が休業を余儀なくされ、従業員の生活の安定確保が急がれている一方、農業現場では、外国人技能実習生の入国の見通しが立たず、春の農作業がピークを迎えようとしていたことから、**労働力の確保が喫緊の課題**となっていた。
- このため、道農政部では令和2年4月16日に、新型コロナウイルス感染症による各業界の影響や農業現場の人手不足の状況等について農業団体や経済団体、観光業界、ホテル業界等と意見交換を行った結果、企業と農業とのマッチングに向けた推進体制を整備することとし、5月7日に「**北海道援農推進連絡会議**」を設置した。

[構成員] 北海道経済連合会、北海道商工会議所連合会、北海道商工会連合会(※)、北海道中小企業家同友会、日本労働組合総連合会北海道連合会(※)、日本ホテル協会北海道支部、株式会社農協観光(※)、ワーカーズコープセンター事業団北海道事業本部(※)、北海道農業協同組合中央会、ホクレン農業協同組合連合会
[オブザーバー] 北海道労働局、北海道農政事務所、北海道経済部
[事務局] 北海道農政部
※の構成員は、令和2年5月18日、6月17日に追加

2 取組内容

(1) 求人情報の提供

- JAから求人情報の収集を行い、関係機関・団体へ情報提供。
- 令和2年7月に「**北海道短期おしごと情報サイト**」へ一元化し関係機関・団体に情報提供。
- JA北海道中央会、JICA北海道など他の求人情報サイト等との連携。

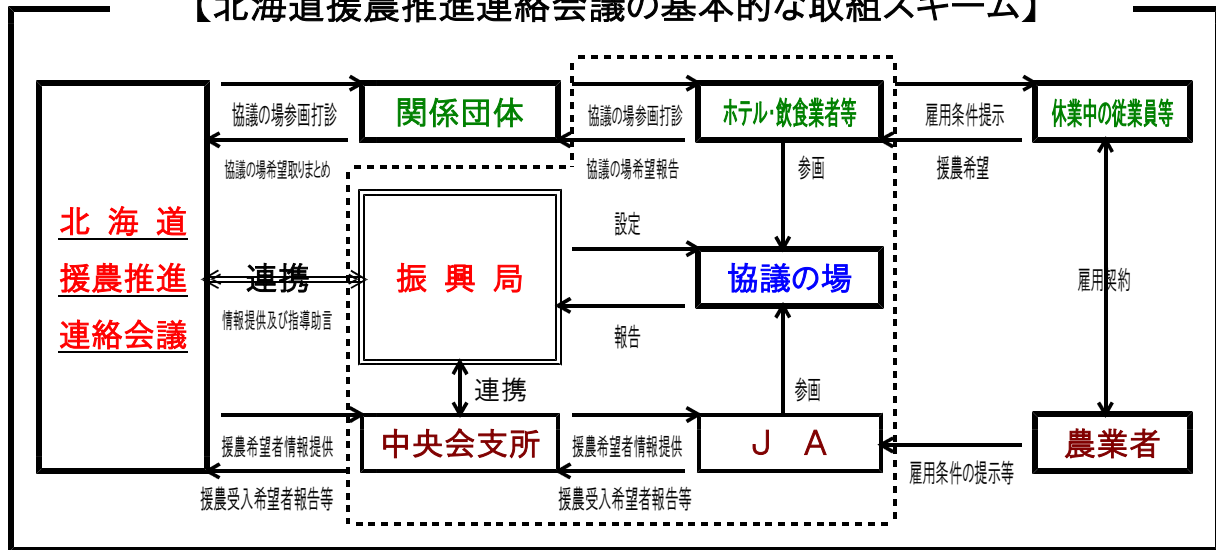
(2) 援農取組事例の情報提供

- 地域の援農(就労)に係る取組事例を収集、関係機関・団体等へ情報提供。

(3) マッチングに向けた調整

- 援農(就労)希望の企業等からの連絡を受け、**JA等との協議の場を提供**。
- 道内大学、JICA北海道へ援農(就労)の働きかけを行い、援農(就労)希望の状況等を把握するなどし、JA等へ情報提供。

【北海道援農推進連絡会議の基本的な取組スキーム】



3 マッチング実績(令和2年12月末現在)

- ANA新千歳空港(株)の従業員61名、旅行代理店の従業員21名、ホテル従業員9名、JICA海外協力隊員2名、社会福祉事業所の利用者13名、道内大学・農業大学の学生106名
合計 212名(実人数)

4 マッチングに向けての課題・問題点

- 企業側は都市部近郊での援農(就労)を希望、農業側の援農(就労)希望場所は全道各地のため、**援農希望場所に食い違い**。
- 従業員の多くが自家用車を持っていない企業の場合、援農(就労)は農家ほ場での作業が主体で自家用車での移動が基本のため、**移動手段の確保**が必要。
- 企業側の従業員は従前の就業時間に合わせた援農(就労)を希望、農業側は一般的に9時から17時までの就業時間を希望しているため、**労働条件に食い違い**。

※ 都市近郊を含めた各JAの求人状況の把握や、地方に所在する企業への援農(就労)の働きかけによる、地域内での援農(就労)の取組の促進が必要。

※ 移動手段の確保や労働条件等の課題解決に向けて、企業側と農業側で引き続き検討が必要。

5 令和3年度取組(案)について

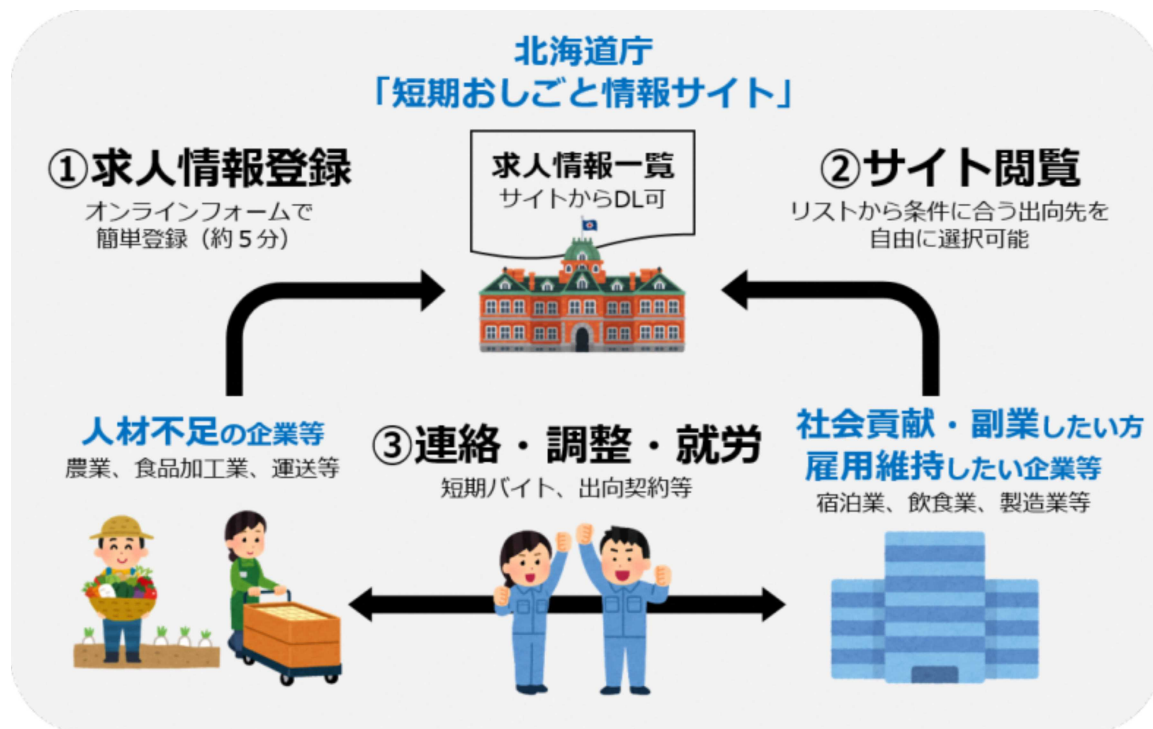
- 令和2年度に引き続き、関係機関・団体への求人情報等の提供や、援農マッチングの取組を継続する。

■北海道短期おしごと情報サイトの取組について

1 これまでの取組経過

- 道経済部では、令和2年度当初から、新型コロナウイルス感染症による影響から農業分野での人手不足や、観光関連産業などを中心に一時帰休が行われているとの各種報道等を受け、産業人材の確保に向けた検討を開始し、国、金融機関、各種業界団体(宿泊・運輸・農業・建設・宿泊分野)、社労士等にヒアリングの上、マッチングのスキームを決定。
- 令和2年4月23日に「北海道短期おしごと情報サイト」をオープン。サイト立ち上げのスピードを重視し、個別のマッチングはせずに、求人情報のみを掲載。
- 同時期にスタートした札幌商工会議所が運営する求人掲示板「ジョブボード」やハローワークとの棲み分けも意識し、道のサイトはあくまで「短期」(最大6ヶ月)の仕事のみ掲載することとし、あくまでコロナ禍で一時帰休を余儀なくされている方々の副業を想定した「つなぎ」の仕事の提供とした。
- その後、スマホでの求人一覧表の視認性を高めるため、スマホページを作成。
- 各種新聞やテレビにも取り上げられるなど、反響を呼び、求人数も増加。また、全国各地の自治体からの問い合わせも多数。その後、道と同様にマッチングに取り組む自治体が相次ぐ。
- 現在は、マッチングの多数を占めた農業が閑散期に入ったこともあり、求人情報の取り下げも増え、マッチング件数は落ち着いている状況。

【北海道短期おしごと情報サイトのスキーム】



2 マッチング実績(令和2年12月末現在)

- 農業82名、水産加工29名、運送6名、事務6名、その他(警備、清掃、販売)3名
合計 126名

3 マッチングに向けて配慮した点

(1) 求人登録数を集める

- サイトオープンにあたり、一定の求人数がないとサイトとしての価値がないため、「ジョブボード」と連携し、人海戦術で電話かけ(ジョブボード掲載求人へのアプローチ)を行い、求人を集めた。(オープン当初は、20件程度)

(2) マッチング数を増やす

- 求人情報の掲載だけでは、マッチング数が増えないため、大口の求人に対し振興局と連携し、出向元や派遣元の開拓に努めた。例えば、網走の水産加工業の求人(※技能実習生が来日できなくなったことによる影響)に対して、地元のホテルに振興局が声かけし、仕事が減っていたホテル従業員とマッチングすることができた。

(3) マッチング実績を集計する

- 掲載した求人がマッチングした企業については、原則、道に報告いただくことにしているが、報告をいただけない場合もあったことから、月1のペースで、各登録企業に連絡し、進捗状況を確認した。また、農業関係の求人など、農閑期に入り、募集を停止したものは、求人を取り下げした。

4 マッチングに向けての課題・問題点

- 求職者の多くは、短期といっても1週間~1ヶ月程度で、1日数時間程度でできる簡単(かつできれば公共交通機関で通勤できる、資格なし)な仕事を望んでいるが、求人の多くは、半年以上(できれば就職してほしい)、拘束時間も朝~晩まで屋外でのハードな仕事が多く、ミスマッチが起きている。
- 例えば、農業の求人の多くは、圃場への直接出勤が求められるが、若い世代には車を持たない人も多く、ハードルとなっている場合もある。出来れば、企業側にも求人登録してもらった際に、もう少しハードルを下げてもらった方がよい。

5 令和3年度の実績(案)について

- 令和2年度に引き続き、サイトの運営に努める。なお、マッチング数を高めるためには、求職者にもっと知ってもらう必要があることから、引き続き周知に努めていく。